

ちゅうおう

第201号 2022年



第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会（鹿児島県）（令和4年10月6日～10日）

長崎県県央振興局農林部（中央家畜保健衛生所）

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331（代）（休日、夜間も携帯電話に転送されます）

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課：s34500@pref.nagasaki.lg.jp

防疫課：s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課：s34520@pref.nagasaki.lg.jp



[HP]



HP：<http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html>

- [目次]
- P.2… 鳥インフルエンザの発生リスクは今年度も高い!!
 - P.3… 流行シーズンに向けて再点検をお願いします!!
 - P.4… 防疫演習を開催しました!
第12回全国和牛能力共進会 鹿児島県大会結果
 - P.5… 飼養衛生管理基準遵守優良事例(牛)
 - P.6… 野生イノシシ豚熱検査実施状況
令和4年度上半期病勢鑑定実施状況

鳥インフルエンザの発生リスクは今年度も高い!!



今シーズンにおける国内野鳥1例目は、9月25日に神奈川県伊勢原市で回収されたハヤブサであり、過去2年と比べても約1か月も早い時期の発生確認となりました。10月24日時点現在、国内野鳥では1道4県6事例まで報告されています。また、我が国における発生と関係が深い韓国においては、家きん農場においても発生が確認されており、渡り鳥の飛来が本格化するに連れ、発生リスクは、急速に高くなると考えられます。



また、日本での流行は、前年シーズンの欧州での流行との関連性が高いとされており、昨年に欧州で過去最大の発生が確認されていることから今シーズン日本における発生リスクは非常に高くなると推察されます。

更に世界各地で発生が継続している現状を踏まえると、今後は毎シーズン本病の発生リスクが高まる可能性が考えられます。

飼養衛生管理基準の再点検及び遵守徹底により発生防止に努めてください。

《年度別の野鳥及び家きんにおける初回発生及び最終発生》

野鳥

年度	初回発生	最終発生
H29	H29.11.5 (島根県)	H30.1.25 (兵庫県)
R2	R2.10.24 (北海道)	R3.3.3 (栃木県)
R3	R3.11.8 (鹿児島県)	R4.5.14 (北海道)
R4	R4.9.25 (神奈川県)	R4.10.16 (新潟県)*

家きん

年度	初回発生	最終発生
H29	H30.1.11 (香川県)	
R2	R2.11.5 (香川県)	R3.3.13 (栃木県)
R3	R3.11.10 (秋田県)	R4.5.14 (北海道)
R4		

※R4年度は10月24時点

特定症状（1日の家きんの死亡羽数が過去3週間の平均死亡羽数の2倍以上）
が確認された際は早期通報をお願いします。

■特定症状確認時連絡先
(休日・夜間共通)

中央家畜保健衛生所
TEL.0957-25-1331

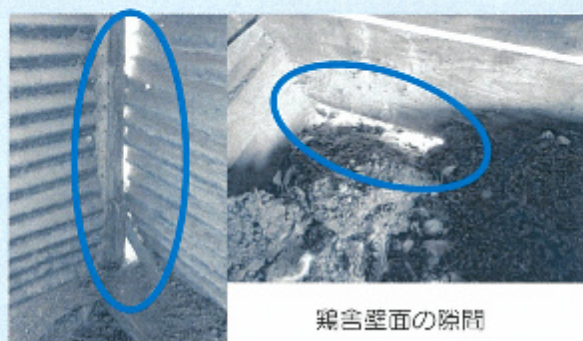


流行シーズンに向けて、再点検をお願いします!!

2021年度の鳥インフルエンザ発生農場における疫学調査の結果、鶏舎に出入する際の長靴の交換をしていないなどの衛生対策の不備や、鶏舎の破損により、野鳥やネコ、ネズミなどの野生動物の侵入の可能性がある事例が認められました。

また、2021年度シーズンには留鳥であるカラスにおいて感染が多数確認されたことやカラスを捕食したと思われるキツネとタヌキにも感染が確認されたことから、農場への感染源である野生動物に対する警戒をより厳格化する必要があります。

野生動物侵入防止対策並びに手指消毒・長靴交換等による対策を強化し、高病原性鳥インフルエンザの侵入リスクに対して万全な状態を保つようお願いします。



鶏舎壁面の隙間



鶏舎壁面の金網の破損



鶏舎の天井・壁面に見られた
ネズミの齧り跡と思われる穴



堆肥舎で確認されたカラス

※令和3年度の鳥インフルエンザ発生農場における疫学調査でみられた不適切な飼養衛生管理の例等（農林水産省HP）

【全国一斉飼養衛生管理基準の自己点検】

養鶏農家の皆様については、令和4年10月から令和5年5月までの間、毎月下記7項目を自己点検し、病原体侵入防止対策が万全か確認しましょう。点検結果は電話、メールもしくはFAXで伺いますので回答にご協力お願いします。

- ①衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等
- ②衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用
- ③衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等
- ④家きん舎に立ち入る者の手指消毒等
- ⑤家きん舎ごとの専用の靴の設置及び使用
- ⑥野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕
- ⑦ねずみ及び害虫の駆除



鳥インフルエンザ防疫演習を実施しました!!

【HPAI机上演習】

9月26日、採卵鶏農場での発生を想定して、県機関、市町、支援団体による机上演習を実施しました。

本演習では動員態勢の確認や資材調達、移動用バスの確保等一連の初動防疫作業についての確認を行いました。



【HPAI防疫作業演習】

10月19日及び20日、採卵鶏農場での高病原性鳥インフルエンザ発生を想定し、農場での防疫作業演習を実施しました。

実際に防疫服を着衣し、捕鳥作業、運搬作業、炭酸ガス注入作業、袋詰作業及びフレコンバッグ詰作業等一連の防疫作業に取り組みました。



【防疫資材搬出作業演習】

10月7日、家畜伝染病が県内で発生した場合を想定し、県備蓄防疫資材の搬出作業演習を実施しました。

備蓄資材の搬出と積込作業を担当する農林技術開発センター職員に参加いただき、必要資材及び必要数量を確認後に指定場所へ搬出を行い、時間内に搬出が完了できる体制を確認しました。

第12回全国和牛能力共進会 鹿児島大会結果

出品区(種牛の部)	名号	生年月日	父	二代祖	三代祖	出品者	協議会	序列	
第1区(若雄)	百合情	R2.11.15	百合幸	百合茂	安福久	肉用牛改良センター	長崎県	優等賞 12席	
第2区(若雌の1)	やすのかつ	R3.5.12	勝乃幸	勝忠平	安平	野口大輔	ごとう	優等賞 8席	
第3区(若雌の2)	かの	R3.4.15	勝乃幸	金太郎3	安福久	田中清治	香枝	優等賞 8席	
特別区 (高校及び農業大学校)	はずき	R3.4.10	百合幸	安平栄	平茂晴	鎌早農業高校	高校 農大	優等賞 13席	
第4区 (繁殖群牛群)	はるな おりひめ あひかな	H30.1.8 H30.4.16 H30.5.27	金太郎3 弁慶3 金太郎3	平茂晴 勝乃勝 牛若丸 (長崎)	安福久 北国7の8 平茂晴	村田宗勝 黒瀬武義 平山義雄	県北	優等賞 6席	
第5区 (高等登録群)	やすさち はるさち ゆりさち	H25.4.28 H28.2.2 R1.12.5	安福久 平茂晴 百合平	勝忠平 安福久 平茂晴	川平 勝忠平 安福久	市山浩司 市山浩司 市山浩司	県北	優等賞 7席	
第6区 (総合評価群)	さくら すみれ ことぶき あかり	R3.3.10 R3.3.4 R3.2.17 R3.1.30	弁慶3 弁慶3 弁慶3	平茂晴 金太郎3 金太郎3	百合茂 安福久 牛若丸 (長崎) 福之国	前川尚太郎 前田進牙 平山義雄 前田進牙	県北	優等賞 4席	
出覧区(肉牛の部)	名号	出品者	枝肉重量 (kg)	コース芯面積 (cm)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	BMS. No.	協議会	序列
第6区 (総合評価群)	久留理 廣太 竜	小川博信 川島 勉 山本満年	509.7 496.6 539.7	71 57 73	9.7 8.1 9.2	4 3.3 2.9	11 10 12	県南 県北 香枝	優等賞 4席
第7区 (脂肪の賞評価群)	幸晴平 豊内記 勝晴平	井上義晃 森山寿俊 JA香城市 肥育センター	497.5 492.2 551.4	68 71 65	9.8 7.3 9.3	2.4 1.1 2.5	10 12 12	県央 県央 香枝	優等賞 9席
第8区 (去勢肥育牛)	幸男	山本満年	539.7	76	7.5	1.8	8	香枝	1等賞

飼養衛生管理基準遵守優良事例(牛)

飼養衛生管理基準は、各農場において疾病の発生を予防するために守らなければならない大事な基準です。家畜保健衛生所では定期的に畜産農家への立入調査を実施し、その遵守状況を確認していますが、その中で牛飼養農家の方が独自に取り組んでいる優良事例に出会うことができました。今回は特に皆さんが遵守に苦労されていると思われる**記録の作成及び保管**を中心にご紹介します。疾病の発生予防にはすべての関係者が高い衛生意識を持って地域一体となって取り組むことが重要ですので下記事例を参考にして遵守に向けて取り組んでください。

事例1

右の写真では自作された木製の棚に、記録簿の他、消毒設備も設置されています。記録簿は雨で濡れたり、風で飛ばないように、重量のある金属製の箱に保管されています。



事例2

左の写真は引出し付きの机を利用した例です。衛生管理区域入口の目立つ場所に設置されているため、これを見た人は記入せずには入場できない気分になります。移動可能になっており、雨や風の強い日には牛舎内に避難させることができます。

事例3

右の写真はプラスチック製のレターケースを利用した例です。風で飛ばないようにひもで固定されており、コンテナには重りとして石が乗っています。衛生管理区域入口の目立つ場所に設置されており、外来者が自主的に記入しやすい状況が作られています。軽量のため、雨や風の強い日には移動も容易です。



その他の優良事例



車両消毒のための消石灰散布例

アスファルトの上にカーペットが敷かれており、カーペットに水を含ませることで消石灰の消毒効果が十分に発揮されます。



車両から降りる場所への消毒マット設置例

飼料運搬業者が降車する場所、飼料タンクの前に市販の消毒用マットが設置されています。

令和4年度4～8月病性鑑定実施状況(検査課)

令和4年度4～8月の検査依頼は、牛40件、豚13件、鶏3件の合計56件でした。主な疾病は表のとおりです。

畜種	診断名
牛	ヨーネ病(1)、アスペルギルス症・子牛虚弱症候群(1)、先天性奇形(1)
豚	サルモネラ症(豚)・豚鞭虫症(1)、浮腫病・ロタウイルス病(1)、豚繁殖・呼吸障害症候群(1)、クリプトスポリジウム症(1)、浮腫病疑い(1)、T細胞性リンパ腫(1)
鶏	鶏白血病(1)、ヒストモナス病・鶏大腸菌症・細菌性卵管炎・化膿性卵巣炎(1)、化膿性中耳炎・頭部腫脹症候群(1)

()は件数

家畜伝染病のまん延防止のため、農場へ出入りする人や車の消毒を徹底するなど、引き続き飼養衛生管理基準の遵守をよろしくお願いします。

また、浮腫病などの慢性疾病対策は、環境中の病原体を少なくするため、清掃・消毒を徹底することが重要ですが、ストレスが発症の引き金となることから、日頃からストレスの少ない環境下で飼養する必要があります。慢性疾病で苦慮されている場合は、適正な飼養密度で飼養されているか等、低ストレスな飼育ができていないか、自農場の飼養管理を今一度チェックしてください。

野生いのししにおける豚熱検査実施状況(県全体)

現在国内で発生している豚熱は、主に豚熱ウイルスに感染した野生いのししによって感染が拡大しています。そのため、県では野生いのししの豚熱検査を行い、野生いのししによってウイルスが県内に持ち込まれていないか監視しています。

地域	計画	実施数	実施率
長崎・県央	73	22	30.1%
県南	65	39	60.0%
県北	45	4	8.9%
五島	46	9	19.6%
対馬	60	5	8.3%
全体	289	79	27.3%

今年度はこれまでに79頭の捕獲・死亡野生いのししについて検査を実施し、**全て豚熱ウイルス陰性**であることを確認しています。今後も継続して検査を行い、豚熱ウイルスの早期摘発に努めます。



県内いのしし検査状況 (R4.9月現在)